

秩父市・大友内科医院 大友 一夫

## 「翔んで埼玉」

NETFLIXで「翔んで埼玉」を観た。映画の中の東京都を欧米、都知事を国際的な大金持ち、埼玉県を日本になぞらえると、近世から現代の歴史が見え、近未来も想像できるようになる。ただこの映画に秩父が出て来ないのは残念であった。

かつての武蔵国とは今の埼玉県、東京都と川崎市、横浜市（一部は相模国）全体を指していた。江戸ができるまでは、武蔵国の海辺はただの漁村に過ぎなかった。現在の武蔵国一宮といえば埼玉の氷川神社であるが、以前は多摩市一宮の小野神社であった。ここに祭られている主祭神が天乃下春命である。下春命は記紀には載らないが、『先代舊事本紀』では「八意思兼神やつころおもいかねのみこと・見表春命みわはらのみこと・信乃阿智祝部等祖のしなへのあちのいわいべたちのくじのみやつこちの。次下春命、武蔵秩父国造等祖」とあるように、秩父神社の主祭神・思兼命のお子である。ちなみに思兼命は天照大神の従兄弟にあたる。下春命の子孫はすでに神話の時代から武蔵国で隠然たる力を持っていたということである。秩父にも下春命を祭る掠神社、十八神社などがある。また『先代舊事本紀』に「知知夫国造 瑞牆朝御世、思金命十世孫知知夫彦命、定賜国造、拜祠大神」

とあり、崇神天皇の御代、知知夫国の国造に任ぜられた知知夫彦命が祖神である思兼命をお祭りしたのが秩父神社の始まりである。これをもとに平成26年には御鎮座2100年の奉祝が行われた。

秩父には日本武尊が蝦夷鎮定の後、秩父に立ち寄り武甲山に武具を奉納したという伝説があり、日本武神社など、彼に因んだ神社は多い。しかし記紀には載らない。ところが古代叙事詩『秀真伝』（ここにも下春命が登場する）には次のような記述がある。「花彦尊はわが前御魂 知ろしめし 川合の野に 大宮お 建てて祭らす 氷川神 軍器は ちちふ山」と。花彦尊（日本武尊）は、自分の前御魂（前世）は素戔鳴尊だと悟り、川合の野には大宮を建て、素戔鳴尊（氷川神）を祭り、秩父山（武甲山）には武具を奉納したことがはっきり記されていた。秩父市中心部は明治までは大宮と呼ばれており、武甲山山頂には日本武尊を祭る御獄神社がある。前魂が埼玉に訛伝された可能性が高いのである。

荒川源流が東京湾に流れ込むように、秩父盆地から関東平野、さらには日本全国に広まったものもある。和銅元年、秩父から献上された和銅で全国に流通する貨幣、和同開珎が作られた。その慶賀に伴い、恩赦が施されたり、冠位が上げられ、その年の武蔵国の庸、秩父郡の調が免じ

られたほど画期的なことであった。それは改元に象徴されている。当時の秩父の地質調査、管理体制、交通などが行き届いていた証拠である。

さらに時代は下って、桓武天皇の七代後の子孫、平将桓が武蔵権守に任ぜられると、秩父郡中村郷に居し、秩父氏を名乗った（ちなみに将桓の兄弟、平忠常は千葉氏の祖）。その子孫が江戸氏である。他にも畠山、河越、豊島、渋谷、葛西、稲毛、小山田、榛名、高山氏なども皆秩父氏の子孫であり、彼らは関東一円で勇名を馳せた武士団であった。

今回、あまりに「だ埼玉」が強調されているので、お国自慢がしなくなった次第である。南海トラフの大地震に見舞われる前に、地震や暴風雨に強い秩父に來られることをお勧めする。映画では同じく見下されている千葉と埼玉が一触即発の危機に見舞われるが、やがて双方が手を結んで都庁に押しかけるのであった。ちなみにわたしの父は東京、母は千葉、わたしは埼玉生まれである。